

山田耕嗣先生の遺したラジオを訪ねて

12月24日サンシャインにおいて、ラジオライフ誌の主催の東京ペディションというイベントがありました。今回 BCL の神様といわれた山田耕嗣先生遺品のラジオが展示されるという情報を得て、はせ参じてまいりました。ここでは当時を共有する皆様に簡単ですがご紹介いたします。ラジオは会場の隅のテーブルにひっそりと並べられていました。



多数のラジオが並んでいます。追悼放送が COUGAR から流れていました。



午後終盤に行ったからか、販売会場に比べると人が少なくやや寂しかったです。



これは SONY CRF-320..当時でも数 10 万円して、実物を見たことすらありませんでした。買えるのは大使館レベルだけだったような気がします。何故か横に 50MHz オールモード機の RJX-661 がありました。アマチュア無線もされていたのかもしれませんが。



CRF-320 の拡大です。山田先生はヘビースモーカーだったとのことですので、かなりのタバコのヤニがこびりついています。当時全国の青少年が心待ちにした世界を紹介する珠玉の原稿がこのラジオの前で生まれたのでしょうか。再びわくわくしてきます。



JRC NRD-345 は JRC が最後に出した廉価版の受信機だったように思います。横にあるのは RJX-202 でしょうか。クリスタル時代の 2 m モービル機。昔から使っているナショナルの BCL ラジオの高級品は何故かありませんでした。完全な SONY 派だったのかな。



TRIO R-300 は“ラジオの製作”の広告を飾り、通信方受信機として当時 BCL ファンがほしかった一台でした。あまり汚れていないので、ヤニの厚さでメイン受信機は CRF-320 だったと推察します。



最近まで中央の ICF-SW77 は長らく SONY のワールドバンドラジオのフラッグシップ機でした。左上の ICF-6700 は高価で 1970 年代後半には青少年の手の届くものではありませんでした。その他、ICF-5950 もありました。また、NSB 用や AM ステレオなど、特徴のあるポータブルラジオが何台かありました。



再び通信型受信機ですが、これも普通の人は絶対に買えない JRC の NRD-505 です。超お金持ちの OM さんが送信機と共に揃えるか、プロ船舶無線局が備える受信機でした。



今でこそオークションなどでこれらの機種を目にすることが多くなっていますが、当時これだけのラジオを揃えていたということはやはり凄いことではないかと思われま



山田先生が最後まで**違**われていたのがこの2台だそうです。COUGAR はあまりヤニで汚れていませんが、晩年秋葉原の中古展示ボックスで見つけて喜び購入されたもののようです。音がよさそうで、ジャイロに S メータとまさに当時のラジオです。これで大相撲を聞か



会場では萌え系アイドルさんを招いてトークショーが行われていました。



ラジオを貸し出されたご家族の方と展示を行われた関係者に感謝いたします。ペディションというイベントにも初参加となり、鉄道ファン、パトカーファン、自衛隊ファンなど色々なジャンルを拝見し大変参考になりました。

(平成 20 年 12 月 26 日記)